

## 共生システム理工学類DPルーブリック

大項目	中項目	4 応用レベル	3 実用レベル	2 ミニマムレベル	1 スタートレベル	0 克服すべきレベル
幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性	理工学的な基礎知識	理工学分野のほとんどの基本的なアカデミック・スキルが十分に身につけており、他者にアドバイスすることもできる	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルを身につけており、ある程度実用レベルに達している	授業および授業以外でも理工学分野のアカデミック・スキルを身につけようと努力している	大学で学修するために理工学分野のアカデミック・スキルを身につける必要があることを理解している	理工学分野の基本的なアカデミック・スキルが身につけておらず、その必要性も理解していない
	文系理系の枠を超えた幅広い領域の基礎理解	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を高度に融合させて、多角的・総合的な視点で捉えることができる	自身の専門領域だけでなく、人文科学や社会科学の知見を踏まえて、文理融合的な視点で捉えることができる	人文科学や社会科学の基本的な知見を有しており、自然科学分野の自身の専門を関連付けることができる	文理融合の知見を身につける必要性を理解している	探究的態度が弱く、文理融合の必要性を理解していない
	専門領域を学び続ける姿勢と専門性の確立	自身の専門領域の知識や技術を確実に持っており、かつ、より新しい知見を得ようと努力し、知見の更新を継続することができる	自身の専門領域では非専門とする者よりも確実に知識や技術を持っている	自身の専門領域に関する文献や資料を主体的に読んだり集めたりしている	自身が大学で身につけるべき専門性を意識している	自身の専門性が曖昧で、学力や意欲も足りない
論理的で的確な立案力と決定力	主張を論理的に表現する力	専門性を拡張させ、物事を総合的に認識し、見解の異なる理論も含めて幅広い知識を活用した論理的な説得性のある説明ができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野の知見も活用し、より幅広い根拠に基づく説得性のある論理展開ができる	自身の専門領域を中心とした知識をつなぎ合わせ、根拠に基づいた論理展開ができる	知識と知識を関連づけ、根拠に基づいて論理を展開することの必要性を理解している	知識が少なく断片的で、論理的に思考することが難しい
	立案し決定する力	社会の変化や不確実性も考慮して、課題に対する学際的で優れた改善案等を立案するとともに、社会の多様な主体や基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域以外の関連する学問分野も活用して、課題に対する実効的な改善案等を立案するとともに、多様な基準に基づいて決定することができる	自身の専門領域を中心として、課題に対する改善案等を立案し、相対的に良い案を判断することができる	課題に対する改善案等を立案し、社会的視点や基準に基づいて決定することの必要性を理解している	課題に対する自身の案を考えることができず、決定するための視点や基準も理解できていない
学際的・国際的に実践する力	国際的に活躍するために必要な語学力	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分と他者で議論して、結果のとりまとめや新たな提案をすることができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明して、他者と議論することができる	国際的な社会や学術的活動において、英語を用い、自分の意見を説明することができる	国際社会に対する関心があり、英語の語学力を身につける必要性を理解している	国際社会に対する関心が低く、英語の基礎的な語学力が身につけていない
	専門領域が異なる人に対しても情報発信し交渉を行なう力	高度なグループワークのスキルが身につけており、専門領域の異なる他者との協働においてリーダーシップを発揮し、効果的な結論を導き出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすとともに、協働による相乗効果を生み出すことができる	専門領域の異なる他者とのグループワークに参加し、自身の専門の役割を果たすことができる	専門領域の異なる他者との協働の必要性を理解している	専門領域の異なる他者との協働に関心が無い
積極的かつ持続的な貢献意識	倫理的な行動を選択する姿勢	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から望ましい判断と行動ができるだけでなく、社会にも広げていくことができる	科学技術と社会との関係において、技術者倫理や環境倫理の観点から、望ましい判断と行動をすることができる	科学技術と社会との関係において、求められる技術者倫理や環境倫理に関する基本事項を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解している	科学技術と社会との関係において、倫理的な行動の必要性を理解していない
	貢献し続ける熱意	社会が直面している問題について、自分の専門領域だけでは解決できないような大きな課題に立ち向かい、粘り強く取り組み続けることができる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示するとともに、継続して改善案を模索できる	社会が直面している問題について、自分の専門領域に関わる範囲で解決策を提示することができる	社会が直面している問題について、解決のために貢献することの必要性を理解している	社会が直面している問題について、解決のために貢献しようとする姿勢が見られない

# 共生システム理工学類

## ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

### 【共生システム理工学類の教育目標】

本学類は共生システムの名の下に、人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学ばせ、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を養成します。

### 【学類ディプロマ・ポリシー】

本学類は、基礎的な理工学的知識を習得し、自ら専門性を高め、よりよい社会の構築に向けて専門性を活用できる理工系人材を養成するため、「専門力」「決定力」「実践力」「貢献力」の四つの能力の観点からディプロマ・ポリシーを定めます。

#### . 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性

理工学的基礎知識を幅広く有し、文系理系の枠を超えた幅広い領域への関心を有した上で、自ら選択した専門領域において自主的・継続的な学習を行ない、確かな専門性を身につけたこと。

#### . 論理的で的確な立案力と決定力

自らの主張を論理的に表現でき、立場の違う相手を理解し尊重する姿勢を持ち、冷静な討議を行ない、現状を的確に把握した上で立案し、決定する能力を有すること。

#### . 学際的・国際的に実践する力

専門領域や国を越えて情報発信及び交流する能力を有し、課題の解決に向けて自らの専門性を活かすと共に、様々な人と協同して行動できること。

#### . 積極的かつ持続的な貢献意識

地域の課題から国際的な課題まで現実の課題に貢献し続ける熱意を持ち、倫理的な行動を選択する姿勢を持ち、困難に直面しても挫けない心を持つこと。